

DX 推進に関するトップメッセージ

実務執行統括責任者：代表取締役社長 栗林定正

更新日：2026年02月26日

取り巻く環境変化と DX 推進の必要性

物流業界を取り巻く環境は、これまでにないスピードで変化しています。慢性的な人手不足、少子高齢化による労働力の制約、燃料費・資材価格の上昇、さらには顧客ニーズの高度化・多様化など、従来の延長線上の経営では対応が難しい局面に直面しています。当社においても、現場の努力や改善活動だけでは乗り越えられない課題が顕在化してきました。こうした環境変化に対応し、これからも安定した物流サービスを提供し続けるためには、業務や経営のあり方そのものを見直し、変革していく必要があります。DX は、そのための重要な手段であり、当社にとって避けて通れない経営課題だと認識しています。

DX 推進にかける想いと背景

当社が DX を推進する背景には、「現場を守り、未来につなぐ」という強い想いがあります。物流は人の力に支えられてきた産業であり、当社もまた、現場で働く社員一人ひとりの経験や工夫によって成長してきました。一方で、特定の人に依存した業務や、暗黙知に頼った運営は、持続可能とは言えません。DX を通じて業務を見える化・標準化し、誰もが安全に、安心して働ける環境を整えることが、結果として社員を守り、会社を守る、そして地域社会への貢献につながると考えています。DX は効率化のためだけの取り組みではなく、当社の価値を次世代へ引き継ぐための挑戦です。

現場を守り、未来につなぐ

現状の課題：持続可能性への不安



特定の個人への依存（属人化）
特定の人しか分からない業務が存在し、持続可能な運営が困難。



暗黙知に頼った現場運営
経験者のみが持つノウハウに依存し、情報の共有や継承が不透明。

DXが実現する「守る」と「つなぐ」



業務の見える化・標準化
DXを通じて業務工程を透明にし、誰もが同じ品質で働ける仕組みを作る。



安全・安心な労働環境の整備
標準化によりミスや危険を減らし、社員と会社をリスクから守る。



次世代への価値の継承
効率化だけでなく、企業の強みを未来へ引き継ぐための挑戦。

DX ビジョンと価値創造ストーリー

当社の DX ビジョンは、以下三つの視点を軸に描かれています。このビジョンの根底にあるのは、90 年以上にわたり釧路港を拠点として北海道の物流を支えてきた企業としての誇りと責任を、確実に未来へ引き継ぐという強い意志です。

DXビジョンの軸

お客様に信頼される事業展開のため

従業員満足向上のため

地域社会に貢献する

価値創造のストーリー

お客様に信頼される事業展開のためのDX

物流は、止まることが許されない社会インフラです。だからこそ私たちは、お客様から「任せて安心」と言われ続ける存在でなければなりません。DXを通じて業務の可視化・標準化を進め、品質と安全性を高めることは、信頼を守り、進化させるための基盤づくりそのものです。

従業員満足向上のためのDX

同時に、その信頼は現場で働く従業員一人ひとりによって支えられています。経験や勘に依存してきた業務を、データとテクノロジーで補完することで、誰もが安心して働ける環境を整え、無理なく力を発揮できる職場をつくる。「従業員満足向上のためのDX」とは、働きやすさと働きがいの両立を実現し、人を大切にする経営を次の時代へつなぐ取り組みです

地域社会に貢献するDX

そして、当社のDXは、社内に閉じたものではありません。港・倉庫・輸送を担う物流企業として、地域の産業や暮らしと深く結びついてきた私たちにとって、地域社会への貢献は事業の前提です。環境負荷を抑えた持続可能な輸送、災害時にも機能する物流体制の構築など、DXは地域全体を支える新たな基盤となります。

人の経験と現場力を大切にしながら、データとテクノロジーを掛け合わせる。それによって「信頼を未来へ進化させる」。これが、ミツ輪運輸株式会社の DX ビジョンであり、価値創造のストーリーです。

DX 推進の発信とステークホルダー皆さまへのコミットメント

DX は社内だけで完結するものではありません。社員はもちろん、取引先、地域社会、パートナー企業など、さまざまなステークホルダーの皆さまと共に進めていくものだと考えています。当社は、DX の取り組みや進捗を積極的に発信し、対話を重ねながら推進していきます。また、外部の知見も積極的に取り入れ、学び続ける姿勢を大切にします。DX を一過性の施策で終わらせることなく、経営として継続的に取り組むことをここにお約束します。

100年企業としてのDX推進と未来への展望

当社は、これまで地域に根ざした物流企業として歩んできました。そしてこれからも、社会に必要とされ続ける企業でありたいと考えています。DXは、短期的な成果を求めるものではなく、10年、20年、その先の未来を見据えた取り組みです。変化を恐れず、挑戦を続けることで、「100年企業」として次の世代へ価値をつないでいきます。これからも物流を通じて地域社会に貢献し続けるために、DXを軸とした進化を止めることなく、歩み続けてまいります。

物流DXで築く「100年企業」への道

**DXによる
持続的な進化**

**長期的な視点
での取り組み**

10年、20年先を見据え、
短期的な成果にとらわれず
進化を続けます。



**目指すべき
未来像**

**「100年企業」
への到達**

次の世代へ価値をつな
ぎ、社会に必要とされ続
ける企業を目指します。



**変化を恐れない
挑戦**

停滞することなく、DXを軸
とした物流の変革に挑み
続けます。



**地域社会への
継続的な貢献**

物流を通じて地域に根ざし、
社会の基盤を支え続けます。



DX 推進基本方針

実務執行統括責任者：代表取締役社長 栗林定正

更新日：2026 年 02 月 26 日

1. 企業経営の方向性及び情報処理技術の活用の方向性

● 経営ビジョン

「100 年企業に向けての長期安定経営」

お客様の多様なニーズに即応できる総合輸送業者としての基盤確立に努め、釧路港の港湾作業をはじめ全国ネットワーク輸送企業として 一層の飛躍を図りつつ、働きがいのある職場づくりのため働き方改革を推進していくこと、DX 推進をしていくこと

● 経営ビジョンを実現するために掲げるDXビジョン



お客様に信頼される事業展開のためのDX

従業員満足向上のためのDX

地域社会に貢献するDX

● DX ビジョンにかけた思い

90 年以上にわたり釧路港を拠点に北海道の物流を支えてきた誇りと責任を、未来に確実に引き継ぐことにあります。DX は単なる効率化やデジタル化の手段ではなく、地域の産業と暮らしを守る使命を果たし続けるための新しい基盤です。人の経験と技術に支えられてきた物流をデータとテクノロジーで補完し、誰もが安心して働ける環境をつくり、環境負荷を抑えた持続可能な輸送を実現する。そこには「信頼を未来へ進化させる」強い意志が込められており、三ツ輪運輸の DX は、港・倉庫・輸送を超えて地域社会全体をつなぎ、支える挑戦として位置づけています。

2. 企業経営及び情報処理技術の活用の具体的な方策（戦略）

以下、3つのDX戦略を掲げ、組織全体のデジタル活用を加速します。DX戦略は、2026年～2028年の3年間で実行するものとして策定します。

＜DX戦略①＞ お客様に信頼される事業展開のためのDX

顧客・港湾・倉庫・輸送を一体化し、受注から納品までの進捗・品質・安全を可視化することで信頼性を高める。併せて、物流課題の解消と設備・保全・安全衛生の継続的な改善を図る。

＜DX戦略②＞ 従業員満足向上のためのDX

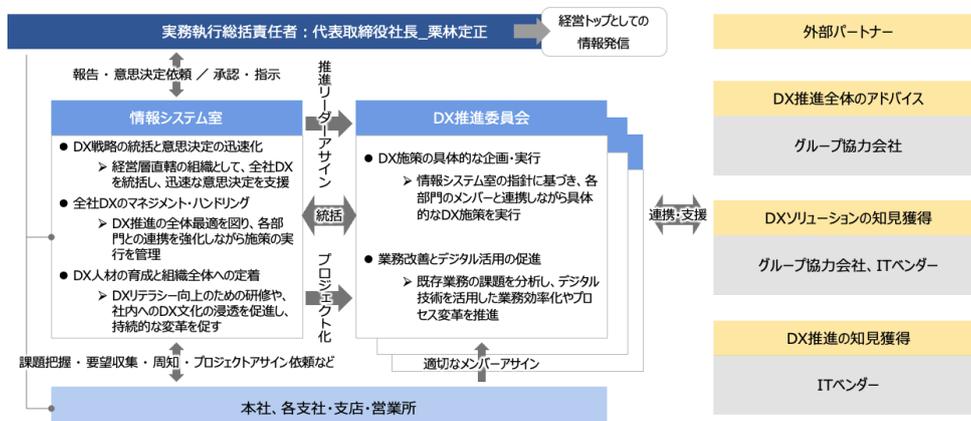
バックオフィスと現場の業務を電子化・自動化し、リモートワークを含めた柔軟で安全な働き方を実現する。働きやすさと生産性の両立を目指す。

＜DX戦略③＞ 地域社会に貢献するDX

「デジタルステーション デジラポ クシロミツワベース（通称：デジラポ）」を通じて、子どもたちへのデジタル教育だけでなく、デジタルに関わる取り組みを発信しつつ、地域のDXリテラシー向上を推進する。

3. 戦略を効果的に進めるための体制

「実務執行総括責任者：代表取締役社長 栗林定正」の直轄部署である、「情報システム室」に全社的なDXをマネジメント・ハンドリングする役割を持たせております。また、DX戦略及びDX推進計画を基に「DX推進委員会」を立ち上げ、実務を担う現場からのメンバーアサインをした上で全社を巻き込んで推進していく体制といたします。



4. 戦略の達成状況に係る指標

前述した DX 戦略①～③のそれぞれの達成度を測る指標を策定しています。2026 年～2028 年の 3 か年での段階的な計画としています。

DX 戦略①～③に紐づけて指標をそれぞれ細分化して定義しており、その DX 戦略実行プロジェクト単位で推進委員会が管理し、定期的な評価・改善が回る仕組みとしています。複数存在するプロジェクト単位での達成度などは、全社的な DX をマネジメント・ハンドリングする役割を持つ、「情報システム室」に集約され、「実務執行総括責任者：代表取締役 栗林定正」へ報告し、指示を仰ぐと共に外部及び内部への情報発信の材料としています。指標としては、「DX 戦略実施により生じた効果を評価する指標」及び「DX 戦略に定められた計画の進捗を評価する指標」の両方の観点で策定し、公表しています。また、定量指標に加えて、達成したか否かが判断できる定性指標も含んでおります。

5. 実務執行総括責任者による効果的な戦略の推進等を図るために必要な情報発信

DX 推進進捗の透明性を担保すべく、定期的に経営陣及び全社員へ DX の進捗情報を共有し、また外部ステークホルダーの皆様へ WEB サイト等を通じ、DX 推進の成功事例やベストプラクティスを発信してまいります。